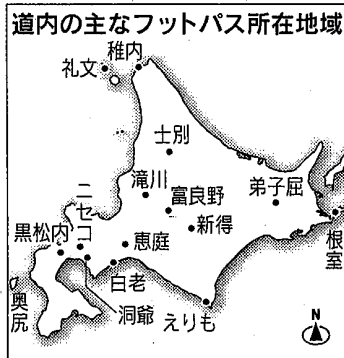


黒松内町は道標を配置してフットパスを整備した



### 自治体や旅行会社 散策ツアーなど企画

道内で観光客を集めるのは大都市の札幌市や、動物園が根強い人気の旭川市など一部地域に限られ、北海道ブームでかつて人気を集めたその他の地域はおしなべて観光客を減らしている。

自治体財政が苦しい、民間投資も期待できない地方にとって、低予算での観光テコ入れは地域活

### 観光客減 窮余の一手

ネットなどの活用カギ

性化策として窮余の一手「宿泊需要が生まれる」といづのも実情だ。フットパスを巡っては、国内旅行は有名地を巡る団体ツアー主体から個人や少人数の旅行中心に変化している。ネットなどの情報発信や、食などの声もあるが、道観光の地域資源との連携に成功すれば、思わぬ人気を呼ぶ可能性はある。

# 「ありのまま」で観光振興

ホテルなどの集客施設や観光スポットに乏しい地域で、ありのままの風景を観光資源として域外に売り込もうとする動きが官民に広がってきた。農・林道などを生かした散策路を「フットパス」と呼び新たな光を当てるなどの試みだ。景気減速感が強まり大型投資が見込めない中、身の丈にあった観光振興策として新しい流れとなる可能性もある。

## 農・林道や噴火のツメ跡

# カネかけず知恵絞る

胆振管内洞爺湖町や壮瞥町は今春、有珠山噴火のツメ跡をめぐる徒歩ルートを設定。北海道観光振興機構（札幌市）の協力で「洞爺湖有珠山フットパスマップ」を発行し、PRを始めた。

火口や被災建造物を見ながら二時間かけて歩く計五コース。一部に標識をつくったが、新たな道路整備などはない。役場への問い合わせも徐々に増えてきたとしており、今後道外の北海道観光

光フェアなどで宣伝を予定する。

京王観光（東京・渋谷）札幌支店は八月三十日と九月二十七日、後志管内黒松内町のブナ林を歩くツアーを実施する。同社は団塊世代のウォーキング人気に着目し、春から札幌市内などでも散策イベントを始めた。「五十、六十代の女性を中心に受けがよい」と需要の伸びを期待する。



国内フットパスの先駆けとされる黒松内町は、四年にコースを設けて以来、官民で徒歩イベントを年二回実施。今年二千三百二十四日には、道内初のフットパスの国際フォーラムを開く。

旅行大手のJTB北海道は、昨年からフットパスを旅行商品のオプションに採用し、今年には根室と稚内の二コースに増やした。観光機構の道北地域部会も今春、礼文島や富良野・美瑛など道北の八コースを紹介した冊子を作成した。

一方、今春には、留萌管内幌延町から同管内増毛町に至る国道232号周辺が、優れた景観のドライブルート「シーニックバイウェイ」として認定された。北海道開発局などを中心に道内官民が、〇五年から認定を始め、沿線の魅力向上に取り組みむ地域を支援する仕組み

胆振支庁は今春、工場見学を受け入れる管内の十二施設を「産業観光マップ」にまとめた。観光商品への組み込みや修学旅行生の誘致につなげたなど紹介されるのが最大のメリット。制度開始から三年間で七地域が指定を受け、指定待ちは現在四件。今年になって二件増えた。

「産業観光」の可能性を探る動きも活発だ。道内一の工業地帯を抱える

旧産炭地の空知支庁も〇五年に炭鉱跡をめぐる推奨ルートを作成。専門サイトも立ち上げた。道経済部は、年内に産業観光を生かした道内活性化について指針をまとめる予定だ。

胆振支庁は今春、工場見学を受け入れる管内の十二施設を「産業観光マップ」にまとめた。観光商品への組み込みや修学旅行生の誘致につなげたなど紹介されるのが最大のメリット。制度開始から三年間で七地域が指定を受け、指定待ちは現在四件。今年になって二件増えた。

旧産炭地の空知支庁も〇五年に炭鉱跡をめぐる推奨ルートを作成。専門サイトも立ち上げた。道経済部は、年内に産業観光を生かした道内活性化について指針をまとめる予定だ。